

九月のテーマ

されど挨拶

# 挨拶こそ人間の証明

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所二代目理事長・丸山竹秋（一九二二—一九九）のことは掲載しません。



え・城谷俊也

**挨拶**を忘れた人間が多くなっているのではなからうか。

「こんにちば」「こんばんは」などもはつきり言わない人があるらしいが、それよりも、もっと大事なことに付いて、忘れてはいないであろうか。

朝起きて布団をたたむか、たたまないか。どちらにせよ、一晩ご厄介になった大事な布団（ベッド）に「ありがとう」と挨拶をするのが本当ではないか。洗面をする。

あわててザブザブと水を使うだけ。水に対する挨拶は？

生物にとって水ほど大切なものはない。その水もしだいに汚れつつあるという。洗面の時ぐらい、人間として改めて水に感謝の挨拶はできないものか。

仕事では何を使うか。使うものに対して、まずは敬意と愛情をこめて挨拶をして使う。ノートやペンに、機械道具に、コンピュータに、机や椅子に、田や畑にも。書道をする人は、まず筆に頭を下げて使い、終わるとまた同じようにする。そうしたことがきちんと

とできないようでは、書道も上達しないという。碁、将棋の類でも、碁石、棋盤、駒など大事にしないような者は、ちよつとだけは強くなれても、後は伸びないという。

自動車を運転する者は自動車に挨拶をする。少なくとも愛情をもって自動車を可愛がり、手入れをして「さあ、今日も出かけるが、よろしく頼みますよ」という気持ちでハンドルをあやつると、事故を起こす率が減るかもしれない。

扱う商品に対しても挨拶が欠けておりはしないか。わが子のように商品を愛し、離れていくときは「どうかお客のために役立っておくれ」と念ずる。朝はじめて見るときには「お早う、今日もしっかり頼みますよ」と挨拶をして手入れにかかる。それもしないで、売れないとただブツブツ言う者が多いではないか。

挨拶とは挨拶も押すことで、複数で押し合う意から、愛情や敬意をあらわすしぐさをいうようになった。家庭はもちろん、その外でもどこでも、こうした挨拶をす

るのが人間の人間たる所以であるはずだ。動物と違うのは、そこではないか。いや、ゴキブリでも、あのヒゲを動かして互いに挨拶をしているのだという説さえあるくらいなのである。

人には魂があるが、物にもそれぞれに魂があるとす。机には机の、コンクリートにはコンクリートの魂があるとみる。そしてすべての万物は親兄妹や親族であり、複数ではじめて生存が可能となるという現実原則をそのまま日常の実践にあらわして、愛と敬でつなぐ。これが人間の挨拶なのである。戦争は正しく挨拶がおこなわれなくなるから起こるのだ。人類が大自然の物を粗末に扱うので、自然が荒廃するどころか、逆に人類に食ってかかるような惨事さえひき起こすのである。

真に世界が一つに結ばれ、戦争をなくし、公害を少なくするその道は、この挨拶の実践から始まるのである。挨拶を馬鹿にしてはいけない。

（月刊『新世』1982年11月号）